



自明治九年七月
至明治十年六月
戶籍局年報

755



114
A2536



調査

調査ハ例歳一月一日ヲ以テスルヲ法トス既
ノ以テセリ但レ九年ノ報告ニ七年ノ調査ヲ掲クルニ
報告年第一ニ掲クルニ七年一月一日ノ調査

府縣該年ノ中報ハ言フ俟タス八年ノ調査猶且期ニ後レ
或ハ謬誤差異推問ヲ要スルモノアリテ整備ニ至ル能ハ
サソレカ故ナリ本年ニ至リ此兩年ノ調査ヲ整頓スルヲ
得タレハ之ヲ左ニ登録シ以テ覧觀ニ供ス本年ノ報告相
當即チ明治十年一月一日ノ調査ハ大政官第ニ十二号公
達ヲ以テ報告ヲ止メラル故ニ五年ヨリ九年ニ至ル迄五
ケ年間ヲ劃レテ仮リニ一期トナレ其成績ヲ比較レ以テ
參觀ノ一ニ供セントス

大正十一年
大藏省
庶務課
印

戸数

明治八年一月一日ノ調査ニ於ルニ戸数七百二十二万。五百五十八戸ニシテ七年第一年取寄揚七百十ニ増加スルヲ八万九千四百七十八戸即七十九戸六九毎ニ更ニ一戸ヲ増殖スルノ割合ト成レリ實ニ増額ノ多キ一前年ノ比ニテラカレリ

明治九年一月一日ノ調査ニ於ルニ戸数七百二十九万三千百十戸ニシテ八年ヨリ増加スルヲ七万二千五百五十二戸即九十九戸五二毎ニ更ニ一戸ヲ増殖スルノ割合ト

明治九年ヨリ五年ニ溯リ五ケ年間に戸数ノ増減ヲ調査スルニ此年間に幸ニ天災地妖ナク故ニ非常ノ減耗アルナレト雖モ歳次増減ノ比較ニ至リテハ或ハ大差ナキ

非ス令其原由ヲ探究セント欲スルニ家屋ノ調査法未ダ精密ニ至ラス随テ詳細ノ実況ヲ辨知スルニ由レナレ誠法精密ニ至リ調査其宜ヲ得ルヲ俟テ卑見ヲ陳セントス先ツ五ケ年間に増減ヲ比較レ參觀ニ供スルヲ左ノ如シ

明治五年

七百十万七千八百四十一戸

明治六年

七百十万一千三百三十戸

明治七年

七百十三万一千八十戸

明治八年

七百二十二万。五百五十八戸

明治九年

七百二十九万三千百十戸

六年ノ五年ニ減スルヲ六千五百十一戸七年ノ六年ニ
増スルニ二万九千七百五十戸八年ノ七年ニ増スルニ八万
九千四百七十八戸九年ノ八年ニ増スルニ七万二千五百
五十二戸十ノ六年ハ一千〇九十一戸六六毎ニ一戸ヲ減
ス七年ハ二百三十八戸七〇毎ニ一戸ヲ増ス八年ハ七
十九戸六九毎ニ一戸ヲ増ス九年ハ九十九戸五二毎ニ
一戸ヲ増シタルノ割合ナリ又九年ノ五年ニ倍後スル
ノ十八万五千二百六十九戸ニシテ三十八戸三六毎ニ
一戸ヲ増シタルナリ

人口

明治八年一月一日ノ調査ニ於ルニ人口三千三百九十九
万七千四百四十九人ニシテ七百人ニ付男百〇三人トス

之レヲ七年ノ調査報一ニ比較スレハ増額三十七万一
千七百七十一人ニシテ即チ九十人四四毎ニ更ニ一人ヲ

増殖セリ

明治九年一月一日ノ調査ニ於ルニ人口三千四百三十三
万八千四百〇四人ニシテ女百人ニ付男百〇二人九六ト
ス之レヲ八年ノ調査ニ比較スレハ増額三十四万〇九百
五十五人ニシテ即チ九十九人七一毎ニ更ニ一人ヲ増殖
セリ

人口増減ノ景況ヲ査閲スルニ未ダ確乎ナル理由ヲ得ル
ニ至ラマスト雖凡テ邦土ノ方位ト季候ノ寒暄トニ論ナ
ク概シテ歳ニ月ニ蕃殖スルハ宇内一般自然ノ常勢ナリ
而シテ或ハ其減少スルヲアルモノハ非常ノ天変地異或
ハ戦闘傳染病ヲ根拠セサルハナシ我邦幸ニ明治五年

歳

ヨリ九年ニ至ルノ間人口ノ増殖ヲ妨害スル非常ノ事アルナキヲ以テ頻年蕃殖シ来リタリキ然レ其蕃殖ノ多寡ニ至リテハ邦土寒暄ノ度ト人知ノ閑否トニ由ラ自ラ差ボアルカ故ニ更ニ出生ノ項ニ就テ之ヲ歐洲各國ノ成績ニ比較シ以テ阜見ヲ閑陳セシトス先ツ明治五年ヨリ九年ニ至ル五ヶ年間我邦人口蕃殖ノ景況ヲ登記シ參觀ニ供スルヲ左ノ如シ

人口蕃殖ノ概景

明治五年

三千三百一十一万。八百二十五人

男 一千六百三十一万四千六百六十八人
女 一千六百七十九万四千六十八人

明治六年

三千三百三十万。六百七十五人

男 一千六百六十四万九千九百四十六人
女 一千六百六十五万七千二百八十九人

明治七年

三千三百六十二万五千六百七十八人

男 一千六百七十五万五千二百五十七人
女 一千六百八十七万零三百二十一人

明治八年

三千三百九十九万七千四百四十九人

男 一千六百七十四万七千四百二十九人
女 一千六百七十五万零三百二十一人

明治九年

三千四百三十三万八千四百四十四人

男 一千六百九十一万八千六百八十八人
女 一千六百九十二万零三百五十六人

五年ハ男ノ女ヨリ多キヲ四十八万四千四百九十一人ニ

レテ女百人ニ付男百。二人九五ノ割合ナリ

六年ハ五年ニ増スル男九万五千五百七十一人女九万

四千二百七十九人合シテ十八万九千八百五十人ナリ
 同年ハ男ノ女ヨリ多キヲ四十八万二千七百八十三人
 ニシテ女百人ニ付男百。二人九四ノ割合ナリ
 七年ハ六年ニ増スル男十五万八千七百九十二人七十
 六万六千二百一十一人合シテ三十二万五千。三人ナ
 リ同年ハ男ノ女ヨリ多キヲ四十七万五千三百六十四
 人ニシテ女百人ニ付男百。二人八六ノ割合ナリ
 八年ハ七年ニ増スル男十九万九千八百九十九人七十
 七万八千七百七十二人合シテ三十七万七千七百七十一人
 ナリ同年ハ男ノ女ヨリ多キヲ五十五万三千三百九十一
 人ニシテ女百人ニ付男百。三人〇〇ノ割合ナリ
 九年ハ八年ニ増スル男十六万九千三百六十五人七十
 七万一千五百九十九人合シテ三十四万〇九百五十五人

ナリ同年ハ男ノ女ヨリ多キヲ五十五万三千三百九十一
 レテ女百人ニ付男百。二人九六ノ割合ナリ
 九年ノ五年ニ倍シタル男六十二萬三千六百二十七
 人七十六万三千九百五十二人合シテ百二十二万七千
 五百七十九人即チ百。九人一八毎ニ更ニ一人ヲ蕃殖
 レタルノ割合ナリ
 前項所掲五ヶ年間ノ実跡ニ就キ之ヲ審査スルニ六年
 ノ五年ヨリ増加シタル割合頗ル少数ナルハ未ダ其何
 故ナルヲ詳明ニスル能ハスト蓋以當時猶ホ墮胎拉致
 ボノ積弊ヲ洗脱スル能ハカリレト戸籍ノ調査其精密
 ナルカ、ルトニ由ルナラシキ来頻年其割合ヲ進ムル
 ナリ之ヲ推考スレバ漸次ニ此惡弊ヲ芟除シ一
 調査法逐年精密ニ赴クカ為メニシテ既述ノ景況亦

自ら推知し得べきカ如し

戸主

明治八年一月一日ノ調査ニ拠ルニ戸主ノ総算七百二十
三万六千二百七十七人ニシテ男六百九十四万五千五百
六十四人女二十九万七千七百三十三人ナリ七年
三百三十七人ニシテ男六百八十五万人ニ増ス
主九万五千二百二十七人女戸主一万三千百。三人合シ
テ十万八千三百三十人ナリ。

明治九年一月一日ノ調査ニ拠ルニ総算七百二十、八万四
千。三十五人ニシテ男六百九十八万六千三百三十八人
女二十九万七千六百九十七人ナリ八年ニ増ス
男戸主四万。七千七十四人女戸主六千九百八十四人合シテ四
万七千七百五十八人ナリ

又五年ヨリ九年ニ至ル五ノ年間、実跡ヲ掲ケ歳次ノ増
減ヲ表章スルノ左ノ如シ

戸主一覽表

皇族	華族	士族	平民	地主	旧神官	僧尼	平民
五年	四七	一六六	一六六	六四六	二〇八	七五八	六三二
六年	四八	一七〇	一七〇	六四四	一五八	七三二	六三〇
七年	二八	一八二	一八二	一八〇	一八	六二二	六三〇
八年	二八	一八二	一八二	一八〇	一八	六二二	六三〇
九年	二九	一九〇	一九〇	一九〇	一九	六二二	六三〇

總計

男女合計

六八三三三
一七六八二

六八七六二
二五九八三

六八三三三
二七六六〇

六九四六四
二九七二二

六九八三六
二九七九七

六年ノ五年ニ増スモノ皇族男戸主一人華族男戸主二
 十六人土族男戸主六万八千二百十九人女戸主九十六
 人卒女戸主三十五人旧神官女戸主二十九人平民女戸
 主八万二千五百七十七人ニシテ減スルモノ卒男戸主
 八万五千三百五十四人地士二人旧神官男戸主五千四
 百七十七人僧ノ戸主二千。五十人尼ノ戸主四百三十
 六人平民男戸主一万七千九百八十六人其増減ヲ加算
 シテ全ク増スモノ女戸主三万九千六百七十八人ナリ
 七年ノ六年ニ増スモノ華族女戸主二人同年初ノ華族
 九士族男戸主七万六千六百七十人女戸主二千二百七
 十二人平民男戸主六万四千六百八十四人女戸主一万

七千六百〇七人ニシテ減スルモノ皇族女戸主二人華
 族男戸主一人卒男戸主七万九千八百六十八人女戸主
 十四人地士六百四十四人旧神官男戸主一万三千五百
 七十八人女戸主五十四人僧ノ戸主四千六百十九人尼
 ノ戸主千三百八十四人ナリ其増減ヲ加算シテ全ク増
 スモノ男戸主四万二千六百四十四人女戸主一万八千
 四百二十七人合シテ六万千〇七十一人ナリ
 八年ノ七年ニ増スモノ士族男戸主千六百九十三人女
 戸主千二百八十四人卒女戸主十六人平民男戸主九万
 九千八百六十四人女戸主一万二千五百四十六人ニシ
 テ減スルモノ華族男戸主七人女戸主一人卒男戸主七
 百十八人旧神官男戸主千二百二十九人女戸主三人僧
 ノ戸主四千三百七十五人尼ノ戸主七百三十九人ナリ

其増減ヲ加添シテ全ク増スモノ男戸主九万五千二百二十八人女戸主一万三千百。三人合シテ十万八千三百二十八人ナリ

九年ノ八年ニ増スモノ皇族男戸主一人華族女戸主二人
人士族女戸主千五百三十五人平民男戸主八万九千五百七十人女戸主七千九百三十六人ニシテ減スルモノ
華族男戸主十人士族男戸主千八百六十人卒男戸主九百三十三人女戸主三十九人旧神官男戸主六百。三人
女戸主八人僧ノ戸主四万五千三百九十一人尼ノ戸主二千四百四十二人ナリ其増減ヲ加添シテ全ク増スモノ
男戸主四万。七百七十四人女戸主六千九百八十四人合シテ四万七千七百五十八人ナリ
又九年ノ五年ニ増スモノ皇族男戸主二人華族男戸主

八人女戸主三人士族男戸主十四万四千七百二十二人
女戸主五千八百七十七人平民男戸主二十三万六千三百
十二人女戸主十二万。六百六十六人ニシテ減スルモノ
皇族女戸主二人卒男戸主十六万六千八百七十三人
女戸主二人地士六百四十六人旧神官男戸主二万。八
百八十七人女戸主三十六人僧ノ戸主五万六千四百三
十五人尼ノ戸主五千。一人ナリ即チ其増算五十五万
六千七百二十人ヨリ減算二十四万九千八百八十二人
ヲ除キ全ク戸主ノ増額二十五万六千八百三十八人ナリ

以上五ヶ年ノ景況ヲ概スルニ五年ハ人口撻算百人
ニ付戸主二十六人五四。三六年ハ二十六人五五四七年
ハ二十六人五四。八年ハ二十六人七一六九年ハ二十

六八八二七ノ割合ニシテ八九四年ノ割合最モ多シト
 ス就中八年ノ七年ニ於ル其差著シキヲ以テ自ラ其
 原由ヲ探究セラルヲ得サルカ如シ是レ則チ七年一月
 茅八号公布ニ依リ僧尼ノ定籍シタルモノ多キニ由テ
 然リトセン歟今試ニ其定籍者ノ八年以降ハ僧尼ノ減
 少ニシテ九年ノ調査ハ其數頗ル多シ又明治五年以降
 僧尼増減ノ成績ヲ觀察スルニ頻年減少シ未テ増加セ
 レトナレ即チ六年ハ五年ニ減スル一三十二分ノ一。九
 八七年ハ六年ニ減スル一十三分ノ一。二四八年ハ七年
 ニ減スル一十四分ノ一。三七九年ハ八年ニ減スル一三
 分ノ一強ニ至レリ九年ノ割合斯ノ如ク夥多ナルハ全
 ノ定籍者多キカ為ノナラン是レニ由テ之ヲ觀レハ八

年ノ戸主ノ増加ハ僧尼ノ定籍多キニ於ルトモ謂ヒ難
 シ果シテ然ラハ八年ノ増加ハ何ニ原因セル歟未タ確
 タル證據差ヲ得ルニ至ラズトモ各地方官分家云々ノ
 申候ニ就キテ當時ノ景況ヲ考察スルニ蓋シ丁壯ノ賦
 兵ヲ忌避スルノ樂起ラテ一家自營資産ノ有無ノ問ハ
 ス切リニ分戸セシ者多キカ為ノナランモ亦知ル可カ
 ラサルナリ但シ此事タルヤ精密ノ調査ヲ要セサレハ
 斷言スル能ハスト雖モ尚ホ一戸主携帶スル所ノ家族
 ノ割合ニ就キテ之ヲ照考スレハ或ハ其実ニ通キテ見
 ルニ是レ可キカ如キモノアルヲ以テ後款ニ之ヲ掲ケ
 カノテ事實ノ明晰ナランヲ要セリ

家族一覽表

族籍 五年 六年 七年 八年 九年

皇族	華族	士族	卒	地士	田神官	僧	尼	平民	概計	男女合計
男 117	男 841	男 375762	男 324665	男 1691	男 32266	男 67652	男 3553	男 929277	男 1504771	男 268876
女 115	女 1366	女 375762	女 324665	女 1691	女 32266	女 67652	女 3553	女 929277	女 1504771	女 268876
男 117	男 841	男 375762	男 324665	男 1691	男 32266	男 67652	男 3553	男 929277	男 1504771	男 268876
女 115	女 1366	女 375762	女 324665	女 1691	女 32266	女 67652	女 3553	女 929277	女 1504771	女 268876

十五年地士ニ男二十九人女三十七人尼ニ女百四十一人
 平民ニ男十五万七千四百十七人女四万七千二百三
 十五人ナリ其減スルモノ皇族ニ男二人卒ニ男七万五
 千三百九十九人女十五万四千四百七十五人僧ニ男八
 百二十人女七千三百〇七人田神官ニ男七千九百四十四
 人女一万二千九百六十六人ナリ其増減ヲ加除シテ全
 ヲ増スモノ男十三万八千九百九十三人女一万九千九百七
 十六人合シテ十五万〇百六十九人ナリ
 七年ノ六年ニ増スモノ皇族ニ男一人女二人華族ニ男
 十九人女四十二人士族ニ男九万四千二百九十三人女
 十六万四千四百六十二人尼ニ男三人平民ニ男十三万六
 千二百六十六人女十八万九千七百七十人ナリ其減ス
 ルモノ卒ニ男九万〇〇十七人女十六万六千七百三十

六人地士ニ男千。九十八人女千六百三十八人旧神官
ニ男二万。五百七十三人女三万三千人僧ニ男二千七
百九十八人女千八百七十七人尼ニ女二百六十五人ナリ
其増減ヲ加除シテ全ク増スモノ男十一万六千。九十
六人女十四万七千八百二十人合シテ二十六万三千九
百十六人ナリ

八年ノ七年ニ増スモノ皇族ニ男二人華族ニ男六人女
七人士族ニ男七千七百三十四人女二千三百九十五人
平民ニ男十万九千。三人女十六万四千二百三十四
人ナリ其減スルモノ平ニ男八百五十一人女千三百八
十七人旧神官ニ男千九百四十三人女二千九百七十四
人僧ニ男九千二百七十八人女二千七百五十三人尼ニ
男二人女七百五十三人ナリ其増減ヲ加除シテ全ク増

スモノ男十万四千六百七十一人女十五万八千七百六
十九人合シテ二十六万三千四百四十人ナリ
九年ノ八年ニ増スモノ皇族ニ男二人華族ニ男三十九
人女三十八人士族ニ男二千七百四十八人平民ニ男十
六万八千六百五十八人女二十万五千七百。七人其減
スルモノ士族ニ女四千。十人卒ニ男千二百六十七人
女二千。六十七人旧神官ニ男七百四十五人女千二百
九十三人僧ニ男三万九千六百三十六人女三万。五百
七十二人尼ニ男一人女二千。三十人ナリ其増減ヲ加
除シテ全ク増スモノ男十二万九千七百九十八人女十六万
五千七百七十二人合シテ二十九万五千五百七十人ナリ

一戸主携帶スル家族ノ割合
族籍 五年 六年 七年 八年

皇族	一人六三六	一人三三三	一人九〇〇	二人一〇〇	二人〇〇〇
華族	四人八〇八	四人八三二	四人九四八	五人〇五八	五人三〇八
士族	三人九五一	三人七三一	一人六三六	三人六三四	三人六三四
平民	二人九四九	三人二二六	三人三二八	三人四三〇	
地主	四人一三三	四人二四八			
旧神官	三人八九四	三人九一四	三人七九七	三人四一六	六人七三三
僧	一人七九〇	一人八一	一人八六五	一人八〇五	二人四〇八
尼	〇人五八五	〇人六五五	〇人八七	〇人七六二	〇人六〇五
平民	三人七四六	二人七四〇	三人七四三	三人七二一	三人七三三
平均	三人七三五	三人七三四	三人七三七	三人七二六	三人七八八
出生					

明治八年一月一日ノ調査ニ拠ルニ出生ノ摺算八十三万六千百十三人ニシテ男四十二万六千八百八十四人女四

十萬九千二百二十九人女百人ニ付男百〇四人三一ノ割合ナリ之ヲ人口ノ摺算ニ比較スレハ四十人六六每ニ一人ヲ生セリ又前年ノ出生摺算七年前調査即チ第一年前調査ノ出生摺算八十九万九千九百八十七人ニシテ男四十一万四千四百〇二人女四十八万五千四百八十五人ニシテ男百〇四人九〇ノ割合ナリ之ヲ人口ノ摺算ニ比較スレハ三十九人五ノ割合ナリ之ヲ人口ノ摺算ニ比較スレハ三十九人五ノ割合ナリ

明治九年一月一日ノ調査ニ拠ルニ出生ノ摺算八十六万九千二百二十六人ニシテ男四十四万六千五百十八人女四十二万二千六百〇八人女百人ニ付男百〇五人六五ノ割合ナリ之ヲ人口ノ摺算ニ比較スレハ三十九人五ノ割合ナリ

七年ヨリ多キト男三十三分ノ一。二七女二十七分ノ一。八七ノ割合ナリ

増殖スルト二万六千六百二十六人ニシテ男一万二千四百五十五人女一万四千一百一十一人ナリ即チ八年ノ出生

七ノ割合ナリ

一人ヲ生セリ又前年ノ出生抵算ニ比較スレハ其増殖ス
ル一三万三千〇十三人ニシテ男二万〇六百三十四人女
一万三千三百七十九人ナリ即十九年ノ出生八年ヨリ多
キ一男二十分ノ一六八女十分ノ一五八ノ割合ナリ
我邦出生ノ実況ヲ替フルニ亞細亞地方ハ姑ク之ヲ措キ
亞細亞各邦ノ統計表ヲ得 歐洲各國ノ我邦土ト緯度ヲ同
ル能ハサル者ニ比較スレハ頗ル寡ナルヲ見ル今ヤ歐洲各
國出生ノ実跡ニ就キ之ヲ考查スルニ寒暄ノ度ト文運人
知ノ閑否トニ由リ大ニ差異アリト蓋比未ク曾テ斯ノ如
ク少算アラサルナリ總テ國土ノ寒冷ナル地位ヲ占ムル
モノハ其度降ルニ隨ヒ出生ノ割合ヲ減少シ其暄暖ナル
地ニ在ルモノハ其度昇ルニ隨テ其割合ヲ増加セリ
北緯ニ在ルモノハ其割合ヲ減スル 其一例ヲ掲ケンニ歐洲ノ

最北ヲ占ムル那威地方ハ北緯五十三度二十三分五秒ニ
起リ七十度余度ニ達ス之ヲ歐洲ノ最寒度トス其住民ハ概
テ一方「リニ」ノ「リ」ニハ我邦内ニ百〇八人ノ割合ニシ
テ出生ノ比例人口三十四人毎ニ一人ヲ生セリ是レ最寒
度地方ノ概況ナリ又阿洲最南ニ位スル拿破里地方ナリ
ラント及ヒラ「リ」ル 南部ニ伊太利ノ如キハ北緯四十度ニ
昇降レ暑ホ我三陸地方ト其度ヲ同フレ其住民一方「リ」ニ
シ内ニ二千四百人ノ割合ニシテ人口二十一人毎ニ一人
ヲ生セリ是レ最暖度地方ノ概況ナリ又文運人知ノ閑否
ニ関レ同暖度ノ各邦ニ於テ人ノ出生ニ増減アルハ歐洲
各國ノ統計表ニ掲テ歴然見ル一キナリ今又其二三ヲ掲
ケテ之ヲ証セン夫ノ英吉利佛蘭西和蘭比耳時亞爾曼又ノ
如キ文化最進ノ各邦ニ在テハ例年平均レテ人口三十一

人毎ニ一人ヲ生シ魯西亜ポロダ一垧地利帝國旧索魯西
ノ如キ社会ノ調理未タ完カラサル各邦ニ於テハ例年平
均シテ人口二十五人毎ニ一人ヲ生スルノ割合ナリ則チ
彼此ヲ比較スレハ百人ニ付三人二二ト四人トノ差アル
ヲ見ルニ至レフ抑モ同緯度ノ地ト虽モ東西其経度ノ掛
隔スレハ寒暖ノ均レカテサルハ字内ノ通理ナリ然レモ
亦非常ノ軒轅アラサルカ故ニ我邦ヲ以テ那威ニ比スレ
ハ彼ク如ク氣候寒冷ナラヌ而モ出生ノ数彼レニ及ハス
又拿破里地方ニ比スレハ寒暖彷彿シテ敢テ非常ニ差異
ナキモ出生ノ数ニ至ラハ此レニ及ハサルヲ遠シ是ニ由
テ之ヲ觀レハ我邦出生ノ少数ナルハ頗ル怪ムヘキニ似
タリト虽モ統計ノ事タル固ヨリ一時經驗ノ能ク尽スヘ
キモノニアラサレハ須ク之ヲ後年ノ成跡ニ徴シテ確乎

断定スヘレ曩ニ政府此ノ弊原ヲ洞鑿シ其治法ヲ酌量レ
屢ニ令ノ下レテ墮胎拉殺ボノ宿弊ヲ剷除シタルカ故ニ
明治七年以降ヲ以テ明治六年ニ比較セハ其割合霄壤ノ
懸隔アリ此ノ如ク改良ノ功績ヲ奏レ野蠻ノ陋習ヲ洗フ
ト最モ迅速ナルハ可慶ノ事ナリ然リト虽モ是レ其近日
ニシテ其遠目ノ如キハ又列ニ在ルアリ即チ明治六年一
月十八日第二十一号公布ヲ以テ私生子ヲ公認セラレタ
ルノ一事ナリ此公布ヤ我邦未曾有ノ法例ニシテ夫ノ畫
風ヲ洗淨シ造化貴重ノ功德ニ戻ラレノサルノ要點ニ管
シ自ラ生子ヲ隱匿スルノ弊ヲ遏メ将来ニ警誡スル所ノ
ヲレムルヤ必セリ其功亦大ナリト謂フヘシ

自明治六年至明治九年出生ノ実况

明治六年

歳首

五十六万九千〇三十四人
男二十七万八千八百九十八人
女二十九万零五百三十八人

明治七年
八十九万九千四百八十七人
男四十九万五千四百八十九人
女四十万零四百九十八人

明治八年
八十三万六千一百十三人
男四十二万九千六百八十九人
女四十万零六百二十四人

明治九年
八十六万九千二百二十六人
男四十四万二千六百八十八人
女四十二万六千五百三十八人
六年ハ男ノ女ヨリ多キ一十一万二千六百三十八人ニシテ
七百人ニ付男百〇四人五四ノ割合ナリ又出生ノ摺

数ヲ以テ人口ノ摺負ニ比較スレハ五十八人五二毎ニ
一人ヲ生セリ

七年ノ六年ヨリ出生ノ多キ一十四万〇四百五十三
人即チ男十二万三千五百九十三人女十一万六千八百
六十人ナリ男ノ女ヨリ多ク生ル、一十一万九千三百七
十一人ニシテ女百人ニ付男百〇四人九〇ノ割合ナリ
又出生ノ摺数ヲ以テ人口ノ摺負ニ比較スレハ四十一
人五三毎ニ一人ヲ生セリ

八年ノ七年ヨリ出生ノ多キ一十二万六千六百二十六人
即チ男一万二千四百五十五人女一万四千七百七十一人
ナリ男ノ女ヨリ多ク生ル、一十一万七千六百五十五人
ニシテ女百人ニ付男百〇四人三一ノ割合ナリ又出生
ノ摺数ヲ以テ人口ノ摺負ニ比較スレハ四十人六六毎

一人ヲ生セリ

九年ノ八年ヨリ出生ノ多キヲ三万三千〇十三人即チ
男一万九千六百三十四人女一万三千三百七十九人十
リ男ノ女ヨリ多ク生ル。一、二万三千九百十人ニレテ
女百人ニ付男百。五人六五ノ割合ナリ又出生ノ総數
ヲ以テ人口ノ總算ニ比較スレハ三十九人五。毎ニ一
人ヲ生セリ

以上四ヶ年同ヲ平均シ出生ノ總數ヲ以テ人口ノ總算
ニ比較スレハ四十三人八六毎ニ一人ヲ生スルノ割合
ナリ

死亡

明治八年一月一日ノ調査ニ於レハ死亡六十九万六千六
百五十三人男三十五万七千七百五十九人女三十三万八

千八百九十四人ナリ其割合女百人ニ付男百。五人五六
トナル人口四十八人八。毎ニ一人ノ死亡トス之ノ前年
ニ比較スレハ其死亡ノ數三万五千九百五十九人ヲ増セ

明治九年一月一日ノ調査ニ於レハ死亡六十五万四千五
百六十二人男三十三万八千二百七十一人女三十一万六
千二百九十一人ナリ其割合女百人ニ付男百。六人九四
トナル人口五十二人四六毎ニ一人ノ死亡トス之ノ前年
ニ比較スレハ其死亡ノ數四万二千。九十一人ヲ減セリ
戸籍表中從來死亡ノ昏式死者ノ年齢職業及ヒ都鄙ヲ既
別セザリレテ以テ其原由自ラ晰ナラス加之衛生ノ統計
未タ精密ニ至ラス各地衣食住ノ適否及ヒ凡土人為ニ因
ル疾病ノ區別又ハ自衛ノ怠慢危險ノ職ガヲ詳悉スルナ

能ハサレハ方今未タ其事由ヲ断定シテ将来救済ノ基ヲ
 立ツルノ最モ難カルヘシ。如斯ハ牧民急務ノ要件ニシテ
 必ス之ヲ忽ニス可カラス。故ニ速ニ昏式ヲ改正シ前陳ノ
 樊習ヲ一掃セントス。

政洲各國死亡ノ実跡ヲ查考スルニ其数本邦ト大差ナキ
 カ如レト虽モ出生ノ彼ニ多クシテ我ニ寡ナク獨リ死亡
 ノ数ノミ彼ニ倍仲スルヲ見レハ必ス其原由ヲ索ノリ
 ルヘカラスト虽モ前款已ニ陳述セレ如ノ戸籍ノ調査日
 猶淺ノ粗ヨリ精ニ入ルノ目的未タ達スルニ至ラレハ
 方今之ヲ索ルニ由ナシ故ニ姑ク明治六年五年死亡ノ調
 査欠タレハ之
 ノ以降ノ実況ヲ掲ケ其次ニ政洲各國ノ実跡ヲ列記レ
 以テ參觀ニ供スルヲ左ノ如シ

自明治五年至明治六年死亡ノ実況

明治六年

四十万五千四百〇四人
 男二十万八千三百九十二人
 女十三万七千四百一十二人

明治七年

六十六万〇六百九十四人
 男三十一万九千八百七十二人
 女三十四万一千九百二十二

明治八年

六十九万六千六百五十三人
 男三十三万八千八百九十四人
 女三十五万七千七百五十九人

明治九年

六十五万四千五百六十二人
 男三十三万八千二百九十一人
 女三十一万六千三百七十一人

六年ハ男ノ女ヨリ多ク死スル一万余。七百八十人ニ

レテ女百人ニ付男百。五人四六ノ割合ナリ又死亡ノ
概数ヲ以テ人口ノ概算ニ比較スレハ八十二人一四毎
ニ一人ノ死亡トス

七年ノ六年ヨリ死亡ノ多キ一二十五万五千二百九十
人即男十三万二千七百八十人女十二万二千五百十人
ナリ男ノ女ヨリ多ク死スル一二十万。五十人ニレテ
女百人ニ付男百。六人五八ノ割合ナリ又死亡ノ概数
ヲ以テ人口ノ概算ニ比較スレハ五十人八九毎ニ一人
ノ死亡トス

八年ノ七年ヨリ死亡ノ多キ一三万五千九百五十九人
即チ男一万六千八百八十七人女一万九千。七十二人
ナリ男ノ女ヨリ多ク死スル一一万八千八百六十五人
ニレテ女百人ニ付男百。五人五六ノ割合ナリ又死亡

ノ概数ヲ以テ人口ノ概算ニ比較スレハ四十八人八。
毎ニ一人ノ死亡トス

九年ノ八年ヨリ死亡ノ減スル一四万二千。九十一人
即チ男一万九千四百八十八人女二万二千六百。三人
ナリ男ノ女ヨリ多ク死スル一二十万九千八百八十人ニレ
テ女百人ニ付男百。六人九四ノ割合ナリ又死亡ノ概
数ヲ以テ人口ノ概算ニ比較スレハ五十二人四六毎ニ
一人ノ死亡トス

以上四ヶ年ノ平均レ死亡ノ概数ヲ以テ人口ノ概算ニ
比較スレハ五十五人九五毎ニ一人死スルノ割合ナリ

歐洲各邦死亡概表

瑞典	四十七人ニ一人	自一千八百二十一年
暹馬	四十五人ニ一人	一千八百十九年

英吉利	五十五人	一人	一千八百二十一年
荷蘭	四十人	一人	一千八百二十五年
日耳曼	四十五人	一人	一千八百二十五年
ウエルタンブル	四十六人	一人	一千八百二十六年
普魯西	三十九人	一人	自一千八百二十一年至一千八百二十六年
佛蘭西	四十四人	一人	自一千八百二十一年至一千八百二十七年
ロシヤ	三十一人	一人	自一千八百二十一年至一千八百二十九年
ロース領	二十八人	一人	一千八百二十九年
ウオト州	四十七人	一人	一千八百二十四年
埃地利	四十三人	一人	自一千八百二十八年至一千八百三十年
エコーズ	五十八人	一人	一千八百二十一年
以上			
手 齡			

從來戸籍表ヲ調整スルニ年齢区分ノ法ヲ別テ二トス曰
 ク男曰ク女又各自ニ之ヲ再別レテ男十四歳以下ヲ初級
 トレ逐次十五歳廿一歳四十歳六十歳及ヒ八十歳以上ノ
 六級トレ女十四歳以下ヲ初級トレ十五歳四十歳及ヒ八
 十歳以上ノ四級トレ例年戸籍表ニ掲ケテ其概況ヲ表章
 セリ而シテ本年々報ニ於テ調査更始以降五ケ年間ノ実跡
 ノ考較スルヲ得タレハ年次ヲ逐テ掲出レ勉メテ成跡ノ
 明晰ナランコトヲ要ス
 歐洲各國年齢計算法ヲ考査スルニ満五歳以下ヲ初級
 トレ逐次十歳十五歳二十歳三十歳四十歳五十歳六十歳
 七十歳八十歳及ヒ百歳以上ノ十一級ニ区分セリ但シ其
 区別ノ法ハ人壽衛生ニ関スル変遷ニ基キタル者ニレテ
 頗ル各級ニ軒軽アルヲ見ル如斯ニ年齢区分ノ当ヲ得タ

ルト謂フハ致是ニ由テ之ヲ觀レハ從來年齡區別ノ法
 未ク精密ノ尺ナ、ルモアル方故ニ其急需ノ件ヲ察メ
 テ速ニ之ヲ釐正シ漸次精細ニ入り牧民必須ノ用ニ供セ
 ントス今茲ニ從來ノ調査ニ係ルモノヲ掲クルルヲ左表ノ
 如シ

年齡區分表

明治五年		明治六年	
男	女	男	女
十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上

明治七年		明治八年		明治九年	
男	女	男	女	男	女
十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上	十五歳以下 十五歳以上 二十歳以上 三十歳以上 四十歳以上 五十歳以上 六十歳以上 七十歳以上 八十歳以上

自明治十年
至明治九年
五年間
均比較表

男		女	
人負増減	按百人比較	人負増減	按百人比較
十五歳以下	四九一九五	四四六五五	一四八二六
十五歳以上	二〇三〇七	六六二九九	一七九七七
二十歳以上	一九六一七	六七一五二	一四九七一
三十歳以上	一五七二五	五九一〇七	一四八二八
四十歳以上	一五八〇四	四九八四四	九七四一八
五十歳以上	一五八〇四	一四九七一	八二二
六十歳以上	一五八〇四	一四九七一	八二二
七十歳以上	一五八〇四	一四九七一	八二二
八十歳以上	一五八〇四	一四九七一	八二二
九十歳以上	一五八〇四	一四九七一	八二二

以上六表ニ按リ五ヶ年間ノ実跡ヲ照考スルニ十五歳未
満ノ者ハ逐次増殖シテ九年ノ五年ヨリ増加セシ教ハ男

六十五万。六百三十九人即チ七分ノ一。五七六十五万
一千八百。六人即チ六分ノ一。八五歳十五歳以上四十歳
未満ノ者男九万七千五百三十三人即チ七分ノ二。一
三ニ上レノ而シテ四十歳以上ノ者ハ之ニ反レ逐年其負數
ヲ減レ八十歳以上ニ至テハ亦殊ニ甚シトシ九年レ五年
ヨリ減ゾセシ數ハ男一万五千九百九十八人即チ五分ノ一。
。三女三万。八百三十一人即チ五分ノ一。六七ニ及一リ
又四十歳以上八十歳未満ノ者ハ男十萬七千六百六十一
人即チ四分ノ一。二八女十萬二千六百三十四人即チ
四十九分ノ一。六。ナルニ至レリ斯ノ如ク幼者ヲ増殖シ
老者ヲ減亡スルハ蓋或ハ衛生ノ法完カラサルモノアル
テ然ル予猶ホ各地方精察ノ調査ヲ得テ閑陳スル所アル
ハレ而シテ十五歳以上四十歳未満ノ者稍増額アルヲ見ル

ト虽凡四十歳以上ノ遷カニ減少スル者アルヲ以テ之ヲ
考フレバ必スレモ四十歳以下ノ者ノ増殖スルヲ亦確認
レ難シ目テ漸次年齢ノ区分ノ細密ニシテ其要ヲ察シ
トス令女子ハ稽ク之ヲ指キ男子ノ或ハ稼穡或ハ工作通
高ニ従事レ邦土ノ富饒ヲ助ケル者ヲ十五歳以上六十歳
以下ノ者ト仮定シ其人算ヲ筭スルニ五年ハ一千〇六十
九万千三百六十二人六年ハ一千〇六十六万二千百十一
人七年ハ一千〇六十四万四千六百〇七人八年ハ一千〇
七十五万千九百四十五人九年ハ一千〇七十六万七千六
百十人ナリ之ヲ全国人口ニ比較スレバ則左ノ如シ

男子十五歳以上六十歳以下ノ者全国人口
百人ニ付比較

明治五年

三十二人二八

ニ於テハ昨明治九年八月二十一日府縣廳合テリテ三府
三十五縣トナル而シテ本年ニ於テ設立シタル縣ヲ俟セ
テ之ニ比較スレバ区縣合テ開クモノ十三縣即チ二分ノ
一。九二縣合ノミヲ設ケルモノ六縣即チ六分ノ一。三三區
合ノミヲ開クモノ二縣即チ十分ノ一トス如斯筭差ハ
主トメ府縣ノ廢合ニ由ルト虽モ又民會既設ノ縣ヲ裂キ
テ未設ノ縣ニ併スルモノ、如キハ其開設ヲ實際ニ從シ
其幾分ヲ進ムルヤ必セリ矣

ノ調査ニ比較スレハ 三千〇二十八人三一毎一人ノ割合トナレリ而シテノ負數故此死亡ノ多寡ノ見レハ戸籍事務中喫緊ノ要項タリト雖モ從來死亡調査ノ法精審ナラサルヲ以テ令之レテ得ルニ由ナキハ頗ル遺憾ノ至ナリ故ニ漸次調査ノ法ヲ設ケ以テ精細ニ調査スル所アラレトス又政州各國ノ統計表ヲ査閱スルニ棄兒ノ負數及ヒ死亡ノ割合頗ル多クシテ實ニ我邦ノ比ニアラザレハ多少ノ哀回アリ乃チ該表ノ編者タル法國統計局長「モロドロン」氏言ヘルヲアリ曰「嘗テ我法國那破烈公羽帝大戦ノ時ニ方リ横恣放逸ノ下壯ヲ以テ隊伍ニ編入シタルカ故ニ當時大ニ棄兒ノ數ヲ減サレタリレハ一千八百十四年ヨリ次年ニ涉リ各軍凱旋スルニ及レテ還カニ棄兒ノ數ノ増加セリト曰テ惟フニ該邦ノ如キハ風俗放恣ノ弊アリテ之レカ原因ヲ助ケタルヤ歴然徴スヘシ而シテ我邦ニ在

テハ則チ然ラズ主トシテ資産ノ乏キヲ苦ムニ由レリ其心稍テ村度スレバ豈ニ亦慘然ノ至リナラスヤ今茲ニ本年度棄兒收養ノ負數ノ前年度ノ比較トフ左ニ登録シ候セテ政州各國棄兒統計表ヲ掲ケ以テ參觀ニ供ス

目明治十九年七月 各府縣棄兒收養表

府縣名	收		養		死		亡	
	人	負	男	女	人	負	男	女
府縣名	三	四	二	一	二	二		
東京	一	一	三	一				
京都	九		上	四				
兵庫	二		一	〇				
長崎	一		七	六	一	二		
新潟	九		三	六				
埼玉	二		一	一				
群馬	三		二	一				
千葉	三		二	一				

大分	福岡	高知	愛媛	廣島	島根	石川	秋田	山形	青森	岩手	福島	宮城	長野	岐阜	靜岡	愛知	堺	茨城
三三	二〇	一四	六六	一六	四八	三八	三一	一一	一一	二二	三三	六六	六六	一一	一一	一一	一一	一一
七八	七	一	二	二	二	二	一	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二六	二七	三	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三三	六	二																
三三																		
三三																		

熊本	通計	前年統計		前年比較
		增	減	
二	二八七	二一九	六八	
二	一三四	一三八		
一	一五三	一〇一		
二	二四			
一	一			
一	一			
一	一			

政州各國彙見統計表

國名	歲次	彙見ノ生數	出生統計	出生率(彙見比較)
英吉利	八八三	三三三	三七五〇〇〇	六人每二人
其他(養育者)	八三三	九八六〇〇	九人每二人	
葡萄牙	八一九	一五五九〇	一三九五〇	九人每二人
尼達蘭	八二四	一九八五〇	二二〇〇二七	一〇人每二人
日耳時	八三六	八二〇七	一四四二一四	一七人每二人
多加	八三四	二六一七	五四七七九	二一人每二人
偏破	八二八	三〇七三	九六八九八	三〇人每二人

仰商	一一八四一	二五八〇	九一八七〇	三八八五二
加那里	一一八三三	五二二	九〇三七	四一人每
威尼所	一一八二九	一八二一	八五五八七	四七人每

○ 僧領ニ於テ 養育ノ者ニ係ル。次罪ハ革命年度ノ
計莫ク表章スルモノナリ

地方民會

一昨明治八年七月地方官會議ノ時ニ方リ民會ノ建制ヲ
衆議ニ附セラレ當時之ヲ可トスル者ノ多數ニ從ヒ區戶
長ヲ以テ議決トナレ區縣會ヲ開設スヘキニ決議上奏セ
レヨリ府縣一級ノ定則トナレリ尔来トシ民會ノ濶範ヲ
ル一定ノ法則ヲ頒布セスト虽モ姑ク地方ノ適宜ニ開設
スルヲ許可セシカ故ニ昨明治九年七月以降^日年^前年度^以
陳^報告^ニ上^ニ 開設ヲ上告スルモノ^注々有^ニ又地方官ノ見^込

ヲ以テ公撰議算ヲ奉ケ區縣會ヲ設立スルモノ或ハ未ク
全ク其名称ヲ附セザルモ之レニ類似スル會議ノ設アル
府縣ニ從來、從維持マ可キノ決議ナリシヲ以テ地方ノ
申報ト實際ノ景況トハ自ラ差別ナキ能ハサルモノ
アリ又各地方ノ既ニ開會申報スルモノト虽モ或ハ
縣會ノニ開クアリ或ハ區會ノニ設クルアリ或ハ區
縣兩會皆整備スルモノアリテ各一轍ニ出テ又諸
縣ノ廢置分合ニ依リ既設ノ縣ヲ分裂シテ未設ノ縣
ニ併合レ或ハ其半ヲ既設未設ノ兩縣ニ混入スルモ
ノアリテ復タ中絶ニ属スルモノナキニテ故ニ
今開設上告スルモノニ泉キ一々左表ニ掲載シ昨年
度ノ報告ニ對照比較シ以テ方令民會ノ概狀ヲ一覽
ニ供セントス

氏会開設縣名表
明治九年八月廿一日ノ發令ニ係ル
 廢縣トシテ之ヲ府管セシメ府縣ノ氏会開
 設ヲ行ハル共ニ朱字ヲ以テ之ヲ列ツ

正縣会兩立ノ縣

前年度開設上告
 於本年度開設上告
 廢縣廢縣ニ係管スル府縣
 現時開設ノ縣

千葉	新瀉	魚谷	埼玉	茨城	和歌山	兵庫	名東	青森
岩手	愛媛					兵庫	高知	
千葉	新瀉	魚谷	埼玉	茨城	和歌山	兵庫	名東	青森
千葉	新瀉	魚谷	埼玉	茨城	和歌山	兵庫	名東	青森

計十三

山梨	宮崎	宮城	秋田	愛知	島根	石川	三猪	磐前	滋賀	山口
宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎
宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎
宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎

縣会ノ設立ノ縣

三猪
 長崎
 福島

愛知
 島根
 石川
 滋賀
 山口
 静岡

計八
豊岡

区会ノミ設立ノ縣

三 豊岡
四一 兵庫

六

筑摩

筑摩
長野

高知
山形

馬知
山形

計三
計二十四

一
二
六三

二
二十一

以上所掲ノ成績ニ基キ之ヲ全府縣ニ比較スレハ前年ニ於テハ三府五十九縣ニレテ区縣会ノ間設スル者十三縣即四分ノ一七六縣会ノミヲ間ノ者六縣即七分ノ一七五区会ノミヲ設立スル者二縣即十分ノ一六六ナリ本年

明治六年

明治七年

明治八年

明治九年

前年比較	一月一日	調査ノ結果	本年及	明治
人口	三十二人	一	三十一人	六五
戸数	三十一人	六二	三十一人	三五
社数	三			
寺数	二			
寄附金	二六元			
合算	二五元			

表較比減増人口國全調一月一年九治明

前年比較	合計	戸数	社数	寺数	寄附金	合算
男	四三六二六九	六八三	一	二	二六元	二五元
女	四三六二六九	六八三	一	二	二六元	二五元
合計	八七二五三八	一三六六	二	四	五二元	五〇元

京都 大坂 神奈川 兵庫 長崎 新潟 埼玉

一四五番	三五番	二六八番	六六番	二四五番		三四番
三九世三	一三五番	二九七番	三九番	二九七番		二九七番
三九世四	二六九番	三八七番	三九番	二九七番		二九七番
三九世五	一八七番	二九七番	三九番	二九七番		二九七番
三九世六	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世七	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世八	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世九	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十一	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十二	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十三	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十四	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十五	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十六	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十七	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十八	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世十九	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番
三九世二十	二九七番	三九番	三九番	二九七番		二九七番

表神明治八年以降、七年百餘之手、公布奉、同、研、官、原、是、項、故、(一)非、正、在、右、分、後、路、去、次、番、群、(二)在、所、縣、同、中、降、著、諸、首、(三)前、事、場、下、項、目、に、被、認、(四)便、に、要、項、を、存、(五)

